

私は、手に関する慣用句について調べました。

こんな慣用句があります。「手も足も出ない」。これは、どうしようもなく困るという意味で、私にぴったりだと思えます。このスピーチ原稿を書くときも、なかなか書くことができず、手が止まったままだったからです。

テスト前にあまり勉強しなくつて、当日に答えが分からなくて手も足も出ず、結果が悪くて親に見せるとき、手に汗を握ったことがあります。みなさんには、そんな経験がありませんか。「手に汗を握る」とは、危険なことや緊迫したことを前にして、はらはらしたり興奮したりすること、緊張したりすると手のひらに汗をかくことからできました。

ドラえもんでおなじみのび太君は、毎日が手に汗を握るような生活をしています。家にはお母さん



を
し
て
い
る
と
思
い
ま
す
。

怒られ、外に出ればジャイアンに追っつけられ、学校に行けば先生に怒られるのび太君には、手しゅそく足をお措くところがないのではないでしょうか。「手足を措く所なし」とは、安心して身を置く場所がなく、不安でたまらないという意味です。

そんなのび太君に手を貸してくれるのは、やっぱりドラえもんです。「手を貸す」とは、力になるという意味です。

「手のひらを返す」という慣用句があります。意味は、急にがらっと態度を変えるところで、今まで手の甲を見せていたのに、突然さっと手をひっくり返して手のひらを見せることからできた慣用句です。

ジャイアンの悪口を言いながら、本人の前ではがらっと態度が変わるスネ夫にはぴったりの言葉ですね。

たくさんの慣用句の意味を知るところで、言葉や表現の世界が広がるんだと私は思いました。機会があれば、また調べたいです。